

WG 活動報告

13: 成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)

① WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 宇都宮 與	公益財団法人慈愛会今村病院分院	血液内科
加藤 光次	九州大学病院	血液腫瘍内科(第一内科)
菱澤 方勝	京都大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
田野崎 隆二	国立がん研究センター 中央病院	輸血療法科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会 今村病院分院	血液内科
石田 高司	名古屋市立大学病院	血液・膠原病内科
福島 卓也	琉球大学医学部保健学科	病態検査学講座血液免疫検査学分野
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院	がんセンター
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院がん治療センター	血液腫瘍内科
赤塚 美樹	藤田保健衛生大学病院医学部	血液内科
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍センター
東梅 友美	ミシガン大学がんセンター	血液・腫瘍内科 BMT プログラム
名和 由一郎	愛媛県立中央病院がん治療センター	血液腫瘍内科
鶴池 直邦	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
藤原 弘	愛媛大学医学部附属病院	第一内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会今村病院分院	血液内科
町田 真一郎	東海大学医学部附属病院	血液腫瘍内科
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
多田 耕平	国立がん研究センター中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科

② 2012 年 12 月末時点で承認された研究、及び業績一覧

13-1	「ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討」 PI: 石田高司
<p>学会発表: Ishida T, Hishizawa M, Kato K, Tanosaki R, Eto T, Miyazaki Y, Hidaka M, Sakamaki H, Morishima Y, Suzuki R, Utsunomiya A. Clinical impact of reduced intensity stem-cell transplantation for ATL. 第 73 回日本血液学会学術集会, 2011 年、名古屋国際会議場</p> <p>論文業績: Ishida T, Hishizawa M, Kato K, Tanosaki R, Fukuda T, Taniguchi S, Eto T, Takatsuka Y, Miyazaki Y, Moriuchi Y, Hidaka M, Akashi K, Uike N, Sakamaki H, Morishima Y, Kato K, Suzuki R, Nishiyama T, Utsunomiya A. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for adult T-cell leukemia-lymphoma with special emphasis on preconditioning regimen: a nationwide retrospective study. Blood 2012; 120: 1734-41.</p>	

13-2	「成人 T 細胞性白血病／リンパ腫に対する臍帯血移植の後方視的検討」 PI: 加藤光次
<p>学会発表: Kato K, Cho I, Wake A, Uike N, Taniguchi S, Moriuchi Y, Miyazaki Y, Hino M, Akashi K, Sakamaki H, Kato K, Suzuki R, Yamanaka T, Utsunomiya A. Cord blood transplantation for adult T-cell leukemia/lymphoma: The JSHCT WG study. 第 73 回日本血液学会学術集会、2012 年、京都国際会館</p> <p>論文業績: 執筆中</p>	
13-3	「ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討、GVHD の意義について」 PI: 石田高司
<p>学会発表: 検討中</p> <p>論文業績: 準備中 (Blood)</p>	

③ 会議開催記録(2012 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2012/1/8 (第 4 回)	東京医科歯科大学	<p>ATL 患者に対する同種骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較検討についてすでに学会発表は終了していた。学会時に指摘された前処置の強度と年齢、寛解状態、一般状態などの相互作用の関連では有意なものは存在しないことが確認され、早急に論文化することが合意された。</p> <p>ATL における臍帯血移植の成績について報告がされた。単変量解析による予後良好な因子として完全寛解例、ABO 血液型の minor mismatch、GVHD 予防に対する MTX 使用などがあげられた。さらに解析を進めて学会発表を行う。新たな研究テーマを考える。</p>
2012/7/8 (第 5 回)	名古屋第一赤十字病院	<p>新入会参加者の自己紹介(藤原先生、町田先生)を行った。</p> <p>骨髄破壊的移植と非破壊的移植の比較についての論文が受理されたが、さらに GVHD の意義についての追加解析を行うことが提案され、石田先生が担当することになった。</p> <p>臍帯血移植においては、治療関連死が多いことが特徴であることが確認されたが、さらに詳細な解析が必要との意見で一致した。成果は、日本血液学会と適切な国際学会での発表を行うことで合意した。</p> <p>同種移植におけるリスクスコアの有用性について検討し、リスクモデルの作成について提案がなされた。</p>

④ メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2012 年 11 月末時点) (566)回

⑤ WG の今後の活動方針・抱負など

今年度の ATL-WG の活動は、打ち合わせ会 2 回開催と論文 1 編、学会発表 1 演題であり、十分とはいえなかった。ATL は造血器腫瘍の中では少ない疾患であるが、化学療法の予後は不良で、造血細胞移植療法に期待が寄せられている。また、世界中で ATL の同種造血幹細胞移植を数多く施行しているのは日本のみであり、日本からの情報発信は非常に重要な意義を有している。今後は、グループ内での情報交換や積極的な議論を行い、新たな研究テーマを見出し、ATL-WG の活性化を図りたい。